

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を书面開催により開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 土岐紅陵高等学校 学校運営協議会（第3回）
- 2 開催日時 令和5年1月20日（金） 11:00～13:00
- 3 開催場所 土岐市文化プラザ
- 4 参加者
会長 土本 泰 至学館大学
副会長 土本 訓子 土岐市まちづくり推進課長
委員 伊藤 瑛子 美濃焼おかみ塾
後藤 淳 土岐市立下石小学校長
鈴木 琴恵 下石女性の会会長（欠席）
曾我 穂高 株式会社 office sogas 代表取締役
長瀬 教行 土岐市立西陵中学校長
林 純子 土岐紅陵高等学校PTA副会長
前田 宏香 土岐市立西部こども園長（欠席）
山田 みどり 土岐商工会議所事局長（欠席）

学校側 相川 長徳 校長
安藤 範和 教頭
井戸 勇心 事務長
石崎 吉一 教務主任
金子 浩隆 生徒指導主事
薄田 直樹 進路指導主事
加藤 智子 活性化推進部長

5 会議の概要（協議事項）

(1) 令和4年度の評価について

- ・本年度の学習指導、生徒支援・特別活動、進路支援、総合学科推進等について、自己評価及び学校関係者評価の説明

意見1：「高校に入って英語が分かるようになった」という生徒の声が多かったのはよいことである。

意見2：毎朝校歌が流れているのを聞いているが、音楽だけであったものが声入りのものに進化し、学校の試みを身近に感じている。

意見3：登下校時に挨拶をすると、しっかりと返ってくる。規範意識が身につけていることを感じる。

意見4：地域との協働や連携では、地域への貢献や愛着の視点を大切にしてほしい。

意見5：地域の「窯元祭り」については、コロナ禍で実施できない期間があり、形を変えての実施で集客の予想も難しいなかでメイン会場をお願いしたが、高校生がいなかったらイベントが回らなかったと感じている。来年度もぜひ協力をお願いしたい。

意見6：窯元祭りでは、生徒たちが楽しそうに取り組んでいる姿を見た。また、「とき丸」のデザインなど、生徒たちの頑張りを感している。

意見7：地域とのつながりという点において、公民館とのつながりを大切にしてほしい。地域学校協働活動として青少年育成委員には中学校で終わらせず、高校生まで連携することが指導者の育成につながることを話している。幼保小中高の地域づくりを大切にしたい。

意見8：進路という点において、自分の先を見ながら、生き方や進路、興味関心に応じて設定した課題を調べた上で学習発表に参加しており、教育の過程が機能している。

(2) 令和5年度の学校運営基本方針等について

- ・学校運営基本方針の改訂案について説明

⇒承認

(3) 令和5年度の校内組織編制について

- ・分掌組織および委員会組織の見直し案について説明

意見1：これまで5つの分掌であったものを7つの分掌としているが教員の負担はどうか。

⇒限られた人員において分掌業務を分けることは、業務を複数担当することとなるが、ICTの活用やふるさと・キャリア教育の業務を明確に位置付けることで、推進を図っていきたい。

⇒承認

(4) 令和5年度の委員会構成について

- ・委員会組織の見直し案について説明

⇒承認

(5) 生徒心得の改訂について

- ・アンケートの結果等を踏まえた生徒心得の改定案について説明

意見1：生徒たちがどれだけ誇りを持ち、「紅陵の生徒です」と言えるかが大切である。校則は厳しくなくても、本校の生徒としてこれはできるというものを持つことが大切である。

意見2：靴についてサンダルを認めないことは、仕事の現場においても特に厳しく対応していることも踏まえ、安全面からも大切なことである。

意見3：頭髪については、清潔であることが最も大切であり、「清潔感のある」という表記はよい。

⇒「高校生としての品位を・・・」としていたが、18歳成人となることも踏まえての変更とした。

意見4：アルバイトについては、少しでも早くアルバイトをしたい生徒の意見と、学校生活に慣れることを重視した教員側の意見とが分かれるところであるが、生徒の希望を尊重して対応されていてよい。

意見5：スマートフォンについては、今の時代は持っていることが普通であり、学校で預かろうとしても預けずに持っていることは理解できる。授業等でしっかりと使用マナー等について指導をすることが大切である。

⇒「スマートフォン・携帯電話持込届」の提出については、家庭で使用ルールを定める点と、学校内でのルールを確認する点からも継続する。

意見6：制服については、残した方がよいと考える。ただ、学校が定める日だけ着るのでは、保護者からは買う必要があるのかと問われる。体育ジャージも運動ができれば何で

もよいとも考える。

意見7：中学校ではどうかと考えた時、義務教育だから必要であるかという点、小学校は私服であるの点となる。ブレザーへの変更やスラックスの使用の許可、鞆などの検討もしている。

意見8：制服を着ることで、帰属意識や規範意識を高める効果もあり、集会等に落ち着いて臨むこともできる面もある。

意見9：本校の制服は可愛いという意見もある。親の立場で考えると、私服にもお金がかかり、好みによって周りから何か言われたりしないかという点も気がかりである。

(6) 令和4年度後期の取組について

- ・令和4年度の9月以降の学校行事等について説明

(7) その他

- ・課題解決学習発表について

意見1：発表した生徒以外の生徒の発表機会はあるか。

⇒発表生徒は代表生徒となっている。校内で全ての生徒が発表する機会を作り、代表者を決めている。

意見2：堂々とした発表に感心した。自分の意見をしっかりとと言えるということが減ってきており、日頃からそのような場面を大切にしてほしい。課題を見つけていくプロセスが大切である。

意見3：高校に入ると積極的に挙手をするのが少なくなるが、発表者が会場との対話を取り入れている場面がありとてもよい。

意見4：8組の発表と聞いて全て聞くのは辛いかと感じていたが、実際に発表を聞いて、様々なソフトを活用しての作品や相手を意識したストーリー性など、発表者の思いが表れており、とても興味を持つことができた。

意見5：パルクールの発表では、危険と感じる面もあるが、見方を変えると説得力がある発表であった。

意見6：岐阜のキャラクターやポスター作りでは、1つのキャラクターを作るのによく調べられており、これで終わりというのは勿体ない。

意見7：人前でスポットライトを浴びながら緊張して話す機会があることは、貴重な経験である。

意見8：発表者で参加できなかった生徒が、事前にオンラインでの発表を録画したものの発表であったが、話す相手がいない状況で、上手に発表していた。オンラインでのコミュニケーションにも慣れていると感じた。

意見9：今は手軽にアプリの活用などができてよい。1つのことに集中して取組めることはとてもよいことである。

意見10：発表までの教職員の関わりについても大変であったと感じる。

6 会議のまとめ

第3回学校運営協議会では、課題解決学習発表会の参観と、今年度の反省と次年度の方針等についての確認をした。今年度の取組を踏まえて様々な視点からの意見を得た。今後の学校運営に生かしていきたい。